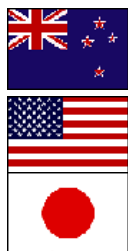


世界のバイオ燃料事情



バイオ燃料を使用した試験飛行の予定が目白押し 年末から来年 1 月にかけて 3 カ国で

今月から来月にかけて、ニュージーランド航空、コンチネンタル航空および日本航空が、バイオ燃料を使用した試験飛行を行ないます。

年末に

ニュージーランド航空(本拠地:オークランド)が 12 月 30 日に試験飛行を行ないます。

同社のジェット旅客機 Boeing 747-400 に 4 基装着されているエンジン(Rolls-Royce 製)のひとつで、ヤトロファ(ジャトロファとも呼ばれます)の油を水素化処理して製造したジェット燃料と通常のジェット燃料を等分混合した燃料が使用されます。

来年 1 月に

コンチネンタル航空(本拠地:ヒューストン)が 1 月 7 日に試験飛行を行ないます。

同社のジェット旅客機 Boeing 737-800 に 2 基装着されているエンジン(CFM International 製)のひとつで、藻から得られた油とヤトロファの油を水素化処理して製造したジェット燃料が使用されます。

CFM International は、米国の General Electric とフランスの Snecma が折半出資しているジェットエンジンの製造・保守会社です。

そして、日本航空が 1 月 30 日に試験飛行を行ないます。

同社のジェット旅客機 Boeing 747-300 に 4 基装着されているエンジン(Pratt & Whitney 製)のひとつで、カメリナ(アブラナ科)、ヤトロファおよび藻から得られた 3 種類の油を水素化処理し

(Web 公開)「世界のエネルギーの話題」(2008 年 12 月 21 日)

て製造したジェット燃料と通常のジェット燃料を等分混合した燃料が使用されます。

今回のバイオ燃料は

いずれも非食物系で、UOP(エンジニアリング大手 Honeywell の子会社)が水素化処理して、再生可能ジェット燃料に仕上げています。

再生可能ジェット燃料は、再生可能輸送用燃料のひとつで、その品質は通常のジェット燃料と変わりません。

藻ですが

Sapphire Energy が納入した「藻から抽出した油」が使われています。

同社は、藻の培養およびその油を抽出する技術を有するベンチャー企業で、藻から抽出した油を「グリーン原油」と呼んでいます。

このグリーン原油は、「製油所で処理できる。製造された燃料は既存の自動車やトラックで使用できる」(5 月 29 日、Los Angeles Times)と説明されています。

意外ですが、今回、Sapphire Energy が納入したグリーン原油の原料は、同社が生産した藻ではありません。

「Sapphire は、試験飛行に必要とする燃料の同社の分担分を生産するためにハワイのバイオベンチャー企業 Cyanotech が生産した藻を使用した」とUOP が説明しています。

<http://www.greentechmedia.com/articles/continental-picks-sapphire-energy-for-bio-jet-fuel-5334.html>

Sapphire Energy は、藻を大量生産するための資金を既に調達しています。次回は自社の藻で生産したグリーン原油を出荷するのではないのでしょうか。

一周年を前に

英国のヴァージン・アトランティック航空が、同社のジェット旅客機 747-400 に 4 基装着されているエンジン(CFM International 製)のひとつで、ハバス油およびココナツ油を原料とするジェット燃料を通常のジェット燃料に 20%混合した燃料を使用して、試験飛行を行ったのは今年の 2 月

(Web 公開)「世界のエネルギーの話題」(2008 年 12 月 21 日)

24 日でした。

その一周年を前に、さまざまな非食物系原料のバイオ燃料が試されます。

ひとこと

一連の試験飛行は、航空機メーカーの Boeing、航空会社およびジェットエンジン製造会社が共同で計画、実施しているものです。

地上でのエンジン試験を経て実施されるこの試験飛行は、バイオ燃料をジェット燃料の国際規格に含めるための重要なステップにもなっています。

(YY)

本レポートは、世界の 2500 紙以上の新聞、5500 紙以上のビジネス紙および業界紙、600 以上のニュースワイヤー(速報)/プレスリリース等を検索できるファクティバ(ダウ・ジョーンズ社のデータベースサービス)を利用して入手した多数の記事、レポートを比較、分析して執筆しています。(山崎由廣)